

株式会社ハイドロウィングラボ

2026年第2四半期

米国・欧州 燃料電池産業 四半期レポート

US & Europe Fuel Cell Industry Quarterly Intelligence Report

調査対象期間	2026年3月25日～2026年6月25日
対象地域	米国・欧州（EU加盟国・英国）
対象FC種別	PEMFC / SOFC / MCFC / DMFC / 定置・商用車・データセンター 全タイプ
除外対象	日本・中国・水電解単体・その他地域発の情報
情報源	各社IR・SEC開示 / DOE・EU欧州委員会 / Reuters・FuelCellsWorks・H2 View等
発行機関	株式会社ハイドロウィングラボ
作成者	シニアアナリスト
調査言語	英語
発行日	2026年6月26日
定価	69,000円（税抜き）／75,900円（税込み）

本レポートは米国・欧州の公開情報（各社IR・SEC開示・政府文書・英語メディア等）に基づき独自に分析・編集したものです。投資・経営判断への利用は自己責任でお願いします。

目次		
1	エグゼクティブサマリー	3
1b	FC種別 技術・市場動向 早見表	5
2	市場・政策動向	5
2.1	米国 — 45V税額控除・DOE水素ハブ・IRA	5
2.2	欧州 — EU水素銀行・AFIR・RFNBO	5
2.3	市場規模・成長見通し	5
3	技術動向（FC種別詳細）	6
3.1	PEMFC — モビリティ・商用車	6
3.2	SOFC — データセンター向け定置電源の急成長	6
3.3	MCFC — 炭素回収統合型	6
3.4	DMFC・その他 — 軍事・携帯用途	6
4	用途別動向（詳細）	7
4.1	データセンター・AI電源（Bloom Energy）	7
4.2	商用トラック（cellcentric・Hyundai）	7
4.3	バス・船舶（Ballard・PowerCell）	7
4.4	定置・バックアップ電源	7
5	主要ニュース詳細（地域別）	8
5.1	米国ニュース	8
5.2	欧州ニュース	9
6	主要企業動向	10
6b	燃料電池コスト・市況分析	11
7	技術・市場の示唆	12
7b	技術用語・略語集	15
8	参考情報・主要情報源	16
8b	アナリストのまとめ	17
9	免責事項	18

1. エグゼクティブサマリー

■ 四半期の重要トピック TOP7（米国・欧州・燃料電池）

#	トピック	重要度	分野
1	Bloom Energy×Oracle 最大2.8GWのSOFC供給合意（4月、初期1.2GW契約）－ AIデータセンター電源の本命に	最重要	SOFC/DC
2	Bloom Energy×Brookfield 50億ドルのAIインフラ提携－ 「Bring-your-own-power」が事業必須に	★★★★★	SOFC/DC
3	FuelCell Energy 受注パイプライン4GWへ急拡大（前Q比+267%）－ 提案の約9割がデータセンター	★★★★★	MCFC/SOFC
4	cellcentric（Daimler×Volvo）BZA150をシュツットガルト新工場で生産開始－ 欧州大型トラックFCの量産拠点	★★★★★	PEMFC/商用
5	Ballard Q1売上1,940万ドル（+26%）粗利14%へ改善－ バス・商用で底打ちの兆し	★★★★★	PEMFC
6	Plug Power 新CEO体制でQ4黒字（EBITDAS）目標－ 資金繰り改善が当面の焦点	★★★★	PEMFC/水電解
7	米45V水素税額控除・DOE水素ハブの先行き不透明－ 政策リスクが投資判断の重し	★★★★	政策

■ 四半期の大きな流れ（3点）

①AIデータセンター電源が燃料電池の最大需要に－ SOFC勢が主役

本四半期の欧米FC産業の最大のテーマは、AIデータセンター向けのオンサイト電源需要である。Bloom EnergyはOracleと最大2.8GW（初期1.2GW契約）のSOFC供給で合意し、Brookfieldとも50億ドルのAIインフラ提携を結んだ。FuelCell Energyの受注パイプラインは4GWへ急拡大し、提案の約9割がデータセンター向けである。電力系統の逼迫とAIの電力急増を背景に、「Bring-your-own-power（自前電源）」がスローガンから事業上の必須要件へと変わり、SOFC定置電源が燃料電池の最大需要として台頭した。

②欧州は商用トラックFCの量産フェーズへ－ cellcentricが牽引

欧州ではDaimler TruckとVolvoの折半出資JV「cellcentric」が、シュツットガルト近郊の「All under one roof」新工場ではBZA150燃料電池システムの生産を開始し、大型トラックFCの量産拠点が立ち上がった。Bosch×PowerCellのS3スタック量産計画（コスト最大2割減）と合わせ、欧州は商用車・定置の「量産・コスト低減」フェーズに入っている。乗用車ではなく大型商用車・定置に焦点を絞る点は日本・中国とも共通する。

③米国は政策の不透明感が重し－ 企業は需要側（DC）で活路

米国では45V水素生産税額控除やDOE水素ハブの先行きに不透明感が漂い、政策リスクが投資判断の重しとなっている。その一方で、Bloom Energy・FuelCell Energy・Plug Power各社はAIデータセンターという民需を活路に見いだしつつある。Ballardは商用車・バスで売上+26%・粗利改善と底打ちの兆しを見せ、Plug Powerは新CEO体制で資金繰り改善とQ4黒字（EBITDAS）を目指す。政策依存から民需牽引へと、欧米FC産業の重心が移りつつある四半期だった。

1b. 燃料電池種別 技術・市場動向 早見表

米国・欧州の主要な燃料電池種別・応用について、成熟度・主要プレイヤー・本四半期の動向を整理した。

種別・応用	成熟度	欧米主要プレイヤー	本四半期の主要動向
SOFC（データセンター）	★★★★ 商用・急成長	Bloom Energy・FuelCell Energy	Oracle 2.8GW・Brookfield 50億ドル。DC需要が爆発的に拡大
PEMFC（商用トラック）	★★★★ 量産移行	cellcentric・Bosch・PowerCell・Ballard	cellcentric BZA150量産開始。Bosch×PowerCell S3量産計画
PEMFC（バス・物流）	★★★★ 商用	Ballard・New Flyer・Solaris	Ballard Q1売上+26%・粗利14%へ改善。底打ちの兆し
MCFC（炭素回収統合）	★★★ 実証～商用	FuelCell Energy	パイプライン4GWへ拡大。DC・炭素回収統合で需要
PEMFC（水電解兼業）	★★ 再建中	Plug Power	新CEO体制で資金繰り改善・Q4黒字（EBITDAS）目標
DMFC・船用	★★ ニッチ	PowerCell・SFC Energy	船用・軍事・携帯。PowerCellが船用で展開

2. 市場・政策動向

2.1 米国 — 45V税額控除・DOE水素ハブ・IRA

米国の水素・燃料電池政策の根幹は、インフレ削減法（IRA）に基づく45Vクリーン水素生産税額控除（最大3.0ドル/kg、炭素強度に応じた4段階）と、超党派インフラ法に基づくDOEの地域水素ハブ（7拠点・約70億ドル）である。45Vは2025年初頭に最終規則が確定し、ライフサイクルGHG算定モデル（45VH2-GREET）が運用されているが、政権交代後はGHG算定モデルの非公開な変更や水素ハブの一部見直しといった不透明感が生じ、本四半期も投資家・事業者にとって政策リスクが投資判断の重しとなった。燃料電池企業は政策依存を避け、AIデータセンターという民需に活路を求める動きを強めている。

2.2 欧州 — EU水素銀行・AFIR・RFNBO

欧州はEU水素銀行（European Hydrogen Bank）の入札による補助、代替燃料インフラ規則（AFIR）によるTEN-T幹線での水素供給拠点整備義務（2030年までに概ね200km毎）、再生可能燃料（RFNBO）の利用目標といった需要・供給両面の制度で水素・燃料電池を後押しする。ドイツを中心に大型商用車の脱炭素が政策の主眼で、cellcentricの量産拠点立ち上げはこの流れに沿う。一方で補助の遅れやコスト高により一部プロジェクトの遅延・見直しも生じており、需要創出（商用車・定置）と供給インフラの整備をどう同期させるかが引き続き課題である。

制度	地域	内容・本四半期の論点
45V水素生産税額控除	米国	最大3.0ドル/kg。GHG算定モデル変更・適用期限で不透明感
DOE水素ハブ	米国	7拠点・約70億ドル。一部見直し観測で先行き不透明
EU水素銀行	欧州	入札補助でグリーン水素の需要を喚起
AFIR	欧州	TEN-T幹線で水素供給拠点整備（2030年～概ね200km毎）
RFNBO目標	欧州	産業・運輸での再生可能燃料利用目標。需要を規定

2.3 市場規模・成長見通し

欧米のFC市場は、AIデータセンター向け定置電源が新たな最大の成長ドライバーとして急浮上した。電力系統の整備が需要増に追いつかない中、SOFC・MCFCのオンサイト発電が「すぐに使える分散電源」として評価され、Bloom Energy・FuelCell Energyの受注が急拡大している。商用車（大型トラック・バス）は欧州が量産フェーズに入りつつあるが、水素価格・インフラ・政策の不確実性から普及ペースには地域差が大きい。燃料電池株（Bloom Energy・FuelCell Energy・Plug Power）の市況も、データセンター需要を織り込んで2026年に大きく上昇した。

サンプル版はここまでです

続きは製品版でご覧いただけます。

ご購入・お問い合わせは下記よりお願いいたします。

<https://hydrowinglab.co.jp/#contact>

株式会社ハイドロウィングラボ

HydroWing Lab Co., Ltd.